

医院だより

令和 6 年 5 月 (250)

秋 山 医 院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

五月

別名 皐月(きつき)、建午月(けんごげつ)、仲夏(ちゅうか)

皐月の『サ』は稲を表す言葉と言われます。稲を植える月、稲の月という意味でこの名が生まれたと考えられています。桜が咲くころ田植えが始まりますが、その時期に稲の神、豊年の神様『サ』が山から下りて来て田植えがおわるまでとどまる『クラ』木をサクラと呼ぶ由縁だともいわれます。

(河出書房新社、鈴木光弘著「暮らして生かす旧暦ノート」より一部引用) つつじ



目次

- 1 五月の異称、五月の花、五月の言葉
- 2 五月の暦、お知らせ、当番医
- 3 健康テレフォン
日野原重明先生の言葉、大岡 信選集
- 4 けんこう(百七十三)
群馬県感染症発生動向調査より
院長のひとりごと(二一九)

『五月の花』

躑躅(ツツジ)、梅檀(センダン)、白根葵、錨草(イカリソウ)、城詰草(シロツメグサ)、赤詰草(アカツメグサ)水芭蕉、藤(フジ)、ライラック、芍薬(シヤクヤク)、牡丹、鈴蘭(スズラン)、あやめ、杜若(カキツバタ)。

『五月の言葉』

主を畏れることは論しと知恵。名誉に先立つのは謙遜。(箴言第十五章三三節)
謙遜であれ、柔和であれ、しかし意気地なしではならない。謙遜は勇氣である、しかし、意気地なしは卑怯である。二者はその外貌において相似て、その内容において全く相異なる。そして世のいわゆるキリスト的謙遜というものに、卑怯の結果であるものが多い。私たちの謙遜をありあまる能力(ちから)をもつ者の謙遜にせよ。世の圧迫を畏れて萎縮する謙遜(退縮)であってはならない。

(内村鑑三「一日一生」四月二十五日)

- 一日 メーデー、八十八夜
- 三日 憲法記念日、先帝(安徳天皇)祭
- 四日 みどりの日
- 五日 こどもの日・おもちゃの日・薬の日

立夏

立夏とは、しだいに夏めいてくるころのこと。あおあおとした緑、さわやかな風、気持ちのいい五月晴れの季節です。

初候 蛙始めて鳴く(かえるはじめてなく)

野原や田んぼで、蛙が鳴き始めるころ。
オスの蛙が、メスの蛙を欲しがって鳴く声だとか。

(新暦ではおよそ五月五日〜九日ごろ)

次候 蚯蚓出する(みみずいずる)

みみずが土の中から出てくるころ。土を肥やしてくれる、田畑の隠れた味方です。

(新暦ではおよそ五月十日〜十四日ごろ)

末候 竹笋生ず(たけのこしょうず)

タケノコが、ひょっこり出てくるころ。伸び過ぎないうちに、とれたてを味わいましょう。

(新暦では、およそ五月十五日〜二十日ごろ)

- 八日 花まつり、灌仏会
- 十〜十六日 愛鳥週間
- 十一日 朔太郎忌

十二日 母の日

十四日 出雲大社例祭

十五日 沖繩本土復帰記念日、京都葵祭

十七日 日光東照宮春季例大祭、伊豆下田黒船祭

二十日 **小満** 小満とは、いのちが、しだいに満ち

満ちていくころのこと。草木も花々も、鳥も虫も獣も人も、日を浴びてかがやく季節です。

初候 蚕起きて桑を食う(かいこおきてくわをく)

う)

蚕が、桑の葉をいっぱい食べて育つころ。

(新暦ではおよそ五月二十一日〜二十五日ごろ)

次候 紅花栄う(べにばなさかう)

紅花がいちめんに咲くころ。化粧の紅がとれる紅摘みは、ちくんととげに刺されながら。

(新暦ではおよそ五月二十六日〜三十日ごろ)

末候 麦秋至る(ばくしゅういたる)

麦が熟して、収穫するころ。実りの季節を、麦の秋と呼びなりました。

(新暦ではおよそ五月三十一日〜六月四日ごろ)

- 二十一日 親鸞聖人誕生会
- 二十七日 日本海海戦(一九〇五)
- 二十九日 晶子忌、こんにやくの日
- 三十一日 世界禁煙デー

お知らせ

一、マイナンバーカードでの受付ができます。保険証の代わりになります。将来的には他院での処方や特定検診結果もここから知ることが出来ます。

・またマイナンバーカードがない方は、月の最初の受診時には、受付に保険証をご提示ください。

二、診療案内

- 一般外来診療・往診・在宅医療
- 骨粗鬆症の検査・治療
- ピロリ菌の検査と治療
- CT、MRI、PETの予約
- 胃カメラ・大腸カメラ
- 肺炎球菌・带状疱疹ワクチン

9時から18時まで

コハコベ(群馬の森にて)



電話〇二七―二三四―四九七〇

<http://www.raijin.com/kenko/>

月	持病の薬と歯科治療
火	便に血が混ざったら
水	指しゃぶりって体に悪いの？
木	たこ・魚の目の治療
金	歯の処置後の痛みについて
土日	アトピー性皮膚炎の最新治療法

「日野原重明先生の言葉」

「人工知能をはじめ、医療の分野では様々な機械化の波が来ています。危惧する声も一方にありますが、先生はどうお考えですか？」

本当に医学の発達は著しくて、ぼくが若い頃からしたら考えられないようなことが日々起きていますね。「人間の医者は

いらなくなるのではないか」と心配したり、否定したりする人もいますが、ぼくは技術がどんどん発展していくということとは、とつても素晴らしいことだと思っています。

ただ、どんな未来が来ようとも、医療従事者にとつて、最も大切なことは変わりません。

それは患者さんを自分の家族だと思つて接するということです。治療をするときはいつも「もしこの人が自分の家族だったらどうするか」と考えながら行動してほしい。僕は医者や看護師だけではなく、事務方やボランティアの人たちも含めて、医療に携わる全員にそのことを呼びかけ続けています。

愛情に基づいた人間の行動こそが問われる。機械化が進めば進むほど、これからはますます愛を大切に作る時代になってくるでしょう。

日野原重明「生きていくあなたへ」

大岡 信著『新折々のうた』七から

しっかりと飯を食はせて陽に当てし

布団にくるみて寝かす仕合せ

河野裕子

『紅(こう)』(平三)所収。一九七〇年代以降に短歌界に勢いよく登場し、若い女性歌人の新しい息吹を鮮やかに示した筆頭はこの作者だった。「たとへば君 ガサツと落葉すくふやうに私をさらって行つてはくれぬか」のような歌は、かつて見られなかった恋愛の歌だったと言える。その恋人も歌人(永田和宏)で、先端的な科学の研究者。二人の子どもがある。うち娘紅(こう)は新進歌人として活躍する。積極的に生き続ける女性の立ち足りた一瞬

「みなさん」とわれの気付かぬ口癖を

まねて生徒は廊走り去る

平田利栄

『海の駅舎』(平一三)所収。歌から見ると作者は小学校教師のようだが自分でも気づいていない口癖を真似されるとは、生徒に親しまれている先生だろう。そういう形で生徒は「先生好きさ」と言っている。「あとがきによると長崎県平戸島の生まれと言う。悲惨なキリシタン迫害被害者の子孫である。『大祖父(おおおや)が踏み絵(ひま

ずば生(あ)るることあらざる我と命いと
しむ』。信仰を裏切った痛みがいまだに重
く心を占める。

けんこう (百七十二)

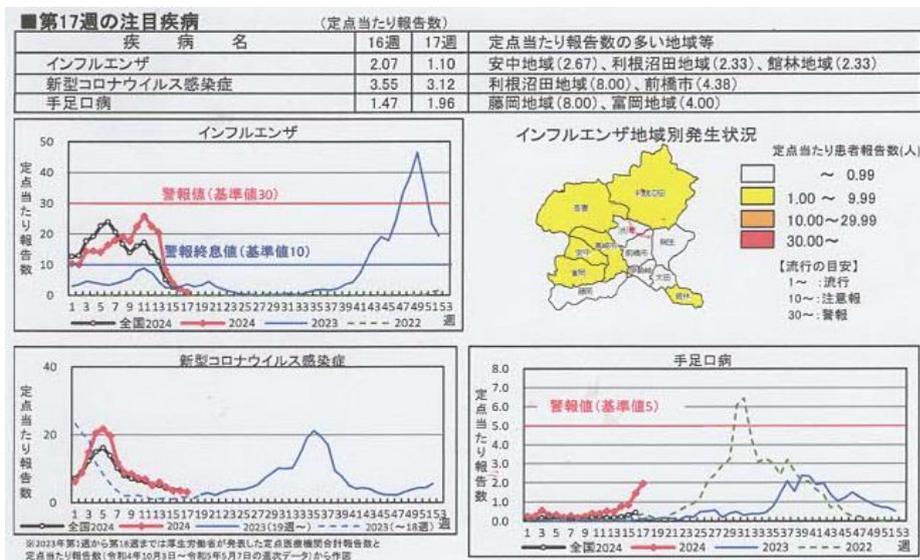
群馬県感染症発生動向調査より(17週)

(群馬県衛生環境研究所感染症制御センター)

- (1) 県内のインフルエンザ警報は解除
されましたが一部地域では多く報告
されています。県内では警報が発令
中です。

引き続き、こまめな手洗いや周りに
感染を拡げないよう、咳やくしゃみ
が出るときはマスクを着用するなど
咳エチケットを行いまししょう。

- (2) 手足口病が一部の地域で多く報告さ
れています。原因となるウイルスはア
ルコールが効きにくいので、手指は石
鹸と流水で良く手を洗うようにしま
ししょう。



院長のひとりごと(二一九)

一休さん(恩師 T先生の想い出)

その2

- (正直であれ うそをつくな)
- (謙讓 弱い人をいたわりなさい)
- (文芸クラブ 芸は身を助ける)
- (初心忘るべからず)
- (恩師の出版祝から)

◇そのことからほぼ20年後、私は勤務してい
た病院のある町の片隅に念願のクリニックを
開設しました。

T先生は退職後、ガイド付きのワープロで
「私家版温故知新」という大判の立派なご本
を作られ、宇宙の始まりから明治時代まで
の世界と日本の歴史を対照してまとめ上げ
られました。出版祝賀会にもご招待いただ
き、ご挨拶させて頂きました。何よりも50
0ページを超える大著でしたが、ご招待され
た以上、せめて最後まで読んでおきたいと
いう思いだけは果たしてから出席しまし
たら、

「よく全部読めたねー」
と驚いて下さいました。

「上杉謙信」「西郷隆盛」の二人がしなやかに世を渡って行けなかったことを惜しんでおられたようでした。武骨な生き方は先生の生き方でもあったかと思えます。

（ことばの改善運動）

◆T先生は、私たちが入学する年に来られ、卒業の年まで私たちの村（小学校2年生の時に隣町に合併され町となりました）に赴任されましたが、来られるが早いか、「ことばの改善運動」をやるという（こと）で村は騒然となりました。しばらくすると、一般に男性の年配の人たちは、「何を言うか！」「くらいの反応でしたが、女性の親御さんのほうが改善派に流れていったようです。



◇新潟南魚沼には当時かなりめずらしい言葉

が残っていて、そのまま話せば、首をかしげられるか、笑われるような表現が多く残っていました。群馬県につながる清水峠越えと、三国峠越え二つのうち、後者が戦国時代、上杉謙信のころから大軍を動かすのには傾斜がゆるくて便利だということで主要道路になったらしく、それとともに清水峠越えはさびれ、道路が崩れるなど、今では峠の前後28kmが人も車も通れない日本で唯一の名前だけは、『国道291号線』です。

◆人の往来がなくなり言葉は標本のように発展変化が止まり固形化してしまったのでしよう。清水峠から六日町までの約20kmはいわゆる文化の無風地帯で言葉が古い時代そのままに残っている地域でありました。三国峠側の越後湯沢はその後1931年10年がかりの工事で清水トンネルが開通し、関東の文化の風の取入れ口となり、昭和27年（1952年）国道17号線、昭和60年（1985年）関越自動車道が完成し、新時代の人類が古い言葉を完全に放逐してしまいました。

◇「とと（父）かか、かつか（嬢）しょうしい（恥ずかしい）だつべ（上州のだんべ）にし（お前、お主）という風にほかの地方の方言の変形と

か、古語の古い形のままで残っていて、新しい時代の人から見ると珍奇に聞こえてしまっていたのです。すなわち、数百年前は普通の言葉だったのがやはり言葉に遅れをとり、自分たちは奇妙な言葉しか話せないと卑下していたところだが、T先生も村の言葉が悪いと言っていたわけではないと、今この文章を書いているときに気が付きました。

◇村内だけで一生暮らすのなら構わないが、これから村を出て町や都会に行つて暮らさなければならなくなったときに、方言の引け目を感じなくてすむような訓練が必要と考え、教えてくれたのではないかと言うことに気づいたのです。

ハンカチの木（群馬の森）



◆私の父が中学校の教員をしていたので、父がどう思うかをずっと気にされていたようで、

「お父さんは私のことを、どう思っておられたかね、ずいぶんへんな先生が来たな、と思っただろうね？」

と二回聞かれたことがありました。

「気になる先生だと、考えていたと思います」

と、一人前の返事をしたのだったが、今思うと、

「このような辺鄙なところに赴任されてきて、大半の人に反対されるのを承知のうえで子供たちの将来のことを考えて、あえて『言葉の改善運動』をやってくださいましたことを感謝していました。言葉の改善とは、先生が古い言葉を使うのが悪いと言われていたのではなく、大切にしながらも、新しい社会に出ていく場合、言葉のことで引込み思案になることなく、胸を張ってやって行けるように共通語も使えるようになってほしいと考えてやってくださったことを、非難承知の上でたった一人で推し進めてくれた、これまでに見たことのない先生だと感謝していたと思います」と先生に言っただけならよかったと

残念に思っています。先生と父との年賀交換は父が亡くなるまで続いていた。

◇なぜそう考えるようになったかという
と・・・。

タンポポ今昔



先生が亡くなられて二年くらいして、私は先生の生まれ故郷(新潟県新井市(現妙高市)を一人で尋ねたことがありました。何か先生の面影を感じさせるものがその土地に行ったら感じられるのではないかと思ったのです。お家を探しましたがなかなか見つかりません、薄暗くなりかけていたとき、外で仕事をしていた男の人に声をおかけして尋ねてみたところ50メートルくらいのところに

先生のご生家があり、先生のお兄様の奥様と、そのお兄様の娘さんとお嬢さんにお会いすることができたのです。

姪御さんの顔に先生の面影があり、先生が私の村に赴任された時には、姪御さんは、お父様(先生のお兄様)が「南魚沼とは、ずいぶん遠くまで行くんだなあ」と先生に言われていたことを話してくれました。お兄様の体のこともずいぶん心配しておられ帰ってくるのと体に気を付けるようにと力づけていたことも話してくださいました。

◆その後、ずっと先生の面影の中に浸っていたが、ほかにそれだけではないものを感じていました。その頃には気付かなかったのですが、実は先生がお生まれになった土地の雰囲気を、理由もわからないまま、とても懐かしく感じていたことに気が付いたのです。

◇それは先生の故郷の言葉の雰囲気が、私が子供のころの村のそれに似ているということに、実に今回、この文章を書いているときに気が付いたのです。

言葉の一語一語の共通性ではなく、話し方の抑揚、流れ、醸し出す柔らかさが自分の生まれ故郷にいるときのような気持ちにさせていてくれたことに気が付いたのです。

◆先生も大好きだったに違いない先生の
生家の同胞との会話、ことば、ことば、こ
とば……………

しかしそれにとどまっているだけでは、子
供を社会に、広く世界に飛び立たせてや
ることができない。

その思いが、私の村に來られた時「言葉の
改善」運動という形になったのではないか
と今になってはじめて理解出來たように
思ったのでした。

ヤマボウシ



それにしても、急に

「おとうさん」

「おかあさん」

と言って追いかけられた当時のわが村の

「とと(父)」「かっか(母さん)」の面々が照れ
くさがって顔を赤くして逃げ回るほどの大
改革は村始まって以來の「ご維新」であつた
にちがいありません。実に大きな「ご維新」。

後日、テレビが茶の間を席捲すると、あつ
というまにそれまで使っていた言葉が消え
て行つてしまいました。南魚沼の言葉がと
りわけ特異的だつたのか、集めて作つた辞
典をインターネットに載せている人もある
し、店の名前につかつているのを見かける
ことがあります。使われなくなった言葉が
郷愁を誘うよすがとなつてゐることは当
時の人が予想もできないことでしょう。

